

令和4年度台湾人介護専門家研修事業 訪日研修報告書

日本台湾交流協会では日台共通の重要課題である高齢化対策として、日本の介護技術・介護産業の台湾への展開・普及、台湾における介護労働従事者の社会的地位の向上と高度専門人材の育成を目的とした台湾人介護専門家研修事業を平成30年度から実施しております。コロナ禍で1年中断した後、令和3年度にはオンライン研修を実施し、令和4年度は介護実習ができない制限つきではありましたが、訪日研修を再開し、台湾各地の介護士、看護師、理学療法士、ソーシャルワーカー等8名が約3週間、佐久大学において研修を受けました。

実際に研修を受けた方がどのように感じ、また研修で得た成果をどのように勤務先で生かしているかをご紹介したく、2名の報告書の日本語訳を掲載いたします。

国立成功大学医学院附属医院
地域介護部副部長 李逸軒（看護師）

3ヶ月のリモート研修の後、日本での実地研修の機会を得ました。長野県は長寿県として有名で、優れた健康増進制度や地域医療構想、包括介護といった連携制度が構築されています。

中央から地方へ 政府と民間協働の長寿への努力

優れた政策も、住民が理解して実施してこそ効果を発揮するものです。長野県では民生委員制度による戸別訪問での健康増進に取り組んでおり、一連の政策推進の要となる保健カウンセラー制度

では、住民が交代制で相談員となり、健康づくりのための知識を学び、他の住民に伝えています。そうすることで近隣住民の相互扶助の精神を育み、政策を理解して健康な行動に取り組み、ピンピンコロリの生き方を目指していました。

介護とはLIFEを支えること 介護の核心は尊厳

日本の介護はとても温かく、お年寄りが尊厳を持って生活していると感じました。研修では介護の基本原則である安心、自立支援、個人の尊厳からはじまり、安全で快適な移乗方法、咳や感染の予防方法等まで深く学びました。要介護者に残されている機能を使っていかにモチベーションを高めていくかを考えること、言葉や動作によるコミュニケーション方法を駆使し、まずは要介護者に何をするのか説明し、同意を得てから行動すること、介護される側の自己決定の意思を尊重すること等を学びました。応対の際の行動や態度、介護される側のプライバシー保護方法についても練習しました。





ピンピンコロリを祈る地藏菩薩



温泉施設にも地域包括支援のチラシが



コミュニケーション方法の実践指導

「LIFE」には「命」「生活」「人生」といった意味があり、介護とはLIFEを支えるもの、生理的な満足だけでなく、生活を助け、人生を支えることなのだと繰り返し学びました。

ボトムアップ型の緊密な連携

台湾の介護現場では、医療と介護が切り離れていると感ずることがあります。

一方で、日本では急性期医療から退院前のリハビリテーション病棟や高齢者施設（中間施設）においても、機能回復訓練、家族への介護方法指導、家庭環境の改善まで提供されていることを知りました。

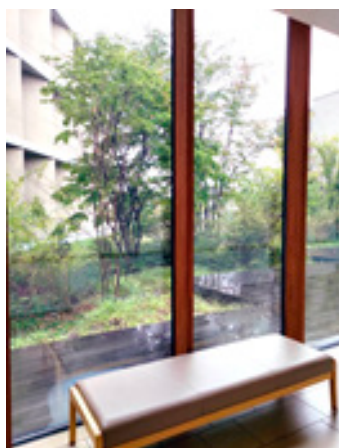
退院後も地域包括ケアと地域包括支援センターで多職種の専門家が連携して高齢者の生活を支援し、些細な家事の問題まで解決しています。それぞれリンクの異なるチーム間であっても頻繁なコミュニケーションと議論を通じて密に連携・分業

するというケアモデルは大いに参考になりました。それは、縦と横のつながり、医療と介護の統合ケアシステムといえるものです。

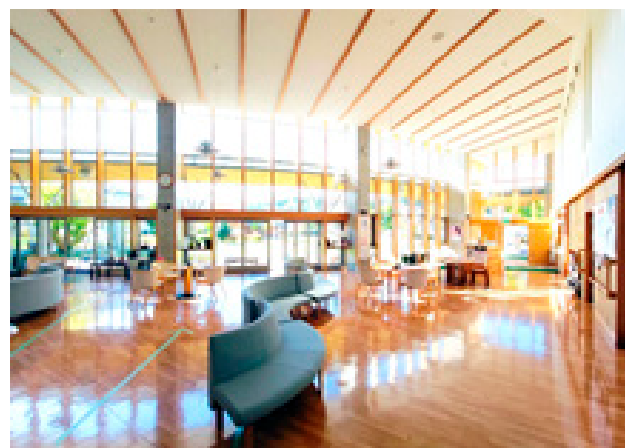
また、非公的介護機関である豊殿地区振興会と協議会では、住民の合意形成、地域訪問医療、生活支援、介護サービスといった地域資源を統合・発展させたボトムアップ型の地方創生、相互扶助モデルを形成していました。

生命を育む自然、母なる大地

佐久市の長寿は、環境の持続可能性の面にも反映されていました。今回、全ての研修生が深い印象を受けた細かいゴミ分類、澄んだ空気と清潔な道路は、屋外活動のストレスを軽減していました。介護施設、デイケアセンター、病院の建物は、いずれも自然と調和し、空間を最大限に活用し、自然がさりげなく取り込まれており、介護される人の身も心も癒し、介護する側を慰労し、双方のス



病院の窓からは屋外の植物が



採光と視野が良好な養護施設

トレスをほぐすようなデザインでした。人間のいのちの源は自然であり、「人と建築と大自然」の対話は、生きること、老いること、病むことも全て大自然とともにあること、次の世代を育くむためにも自然を大切にすべきであると思いました。

日本台湾交流協会、アジアンワイズ、佐久大学の手厚く熱心なご支援・ご指導に篤く感謝します。私も台湾の介護サービスのレベル向上に引き続き努力していこうと思います。

財団法人老五老基金会
ソーシャルワーカー・介護業務主管 周怡秀

1. 経緯と目的：

公益財団法人日本台湾交流協会では、高齢化社会の到来に向け、2018年から日台間の介護分野の交流事業を推進しています。佐久大学※¹とアジアンワイズ社※²の協力によって実施される台湾人介護専門家を対象とした研修では、日本の介護制度の推移、専門知識、身体ケア等の技能を学ぶ他、「尊厳のある寄り添い」という介護の核心的概念、介護分野の日本語学習や日本の生活文化等に関する講義が行われ、教師とのディスカッションによる学習効果の向上が期待されています。

※1 医療介護分野の人材養成

※2 介護分野の日中通訳・研修フォロー

2. 主催団体：

公益財団法人日本台湾交流協会

学校法人佐久学園

アジアンワイズ社（亞智威信有限公司）

3. 研修期間

2022年10月3日～10月24日 講習時間：120時間

4. 老五老基金会の紹介：

私が勤めている老五老基金会は、1997年、高齢化が将来的に台湾の重点課題になると予測した医療、公衆衛生、社会福祉領域の学者・専門家によって設立され、以来25年間、高齢者介護サービス事業に尽力しています。「全ての人々が自分らしく生きるための選択肢を提供する」という理念のもと、「尊重、エンパワーメント、チームワーク」の運営理念を遵守しています。現在、台湾全土に11のデイサービスセンターを有し、さらに1か

所を建設中です。それらのセンターでは、「人を中心」のサービス理念に基づき、「ソーシャルワーカー、看護師、栄養士、理学療法士」が連携し、健康・栄養・運動状態と社会参加状況等を把握したうえで高齢者一人一人に良好な生活習慣をつけてもらいます。そして温存されている潜在能力を呼び覚ますための個別自立支援プログラムをたて、高齢者の尊厳を保ちつつ、「年をとるほど住みやすい」地域づくりを目指し、安心される生活支援場所を提供しています。

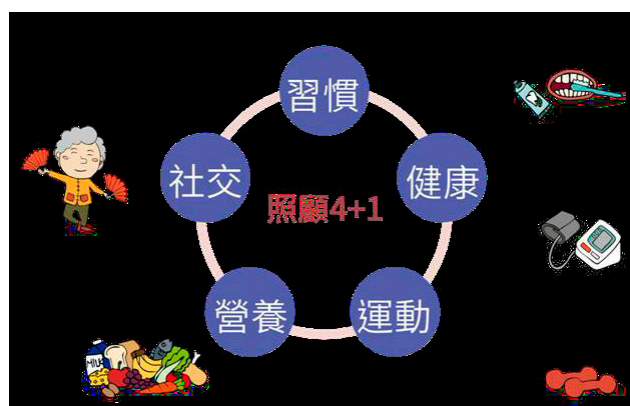
5. 日本での研修成果の具体的な実践計画

(1) サービス理念の導入

日本では、「人を中心のケア」という理念が介護サービス面だけでなく、生活の隅々にまで行き届いていました。人間味のあるデザインとコンセプトに満ちており、例えば宅配便は本人確認をしてから手渡され、配送時間も指定できますし、佐久総合病院医療センターのICU病棟のドアは冷たい鉄のドアではなくて中の様子を見ることのできるガラス扉でした。介護施設内では介護職員が高齢者の目線にあわせ、しゃがみ込んで挨拶をする等、その一つ一つに感動しました。

介護には安全と快適、自立支援、個人の尊厳という技術面での三大原理原則があります。尊厳をもって介護し、支えることで、多元的かつ連続的

ビジョン：年をとるほど生きがいを感じ、
理念：ライフスタイルの選択チャンス
を
コアバリュー：自立支援、尊重、チームワーク



ケア4+1のサービスモデル



に暖かみのあるケアサービスに到達するものです。

今回学んだ介護の三大原理原則の対応マニュアルを当基金会の三大コンセプトである「尊重、エンパワーメント、チームワーク」及び「ケア4+1」※1のサービルモデルに組み入れたら、さらに完璧になると思います。今後、現場用のマニュアルを作成して実践することで、より完全な介護サービス体制が構築されると期待しています。

日本での施設訪問時に、施設概要、DMあるいは施設の隅々にサービス理念と倫理が掲げているのが目に入りました。当基金会においても、より完全なサービスモデルの構築に加え、施設内に介

護環境スローガンを張ろうと思います。スタッフがミーティングごとに口にすることによって、自身の提供するサービスと理念とを結びつけて推進するチームワークができると考えています。

※1 生活習慣、健康管理、運動推奨、栄養指導、社会的交流

(2) 人材育成

1. ケアスタッフ研修 ペアワークによる模擬体験

基金会では、次年度のケアスタッフ教育研修からは、食事介助、体位変換、移乗、おむつ交換に

日本の介護技術における原理原則の導入例

項目	対応マニュアル
個人の尊厳を守る	1. 意思伝達： あいさつは暖かみのあるケアのための第一歩 ☆スマイリーアクティブケア ☆心をこめ、暖かく、元気に ☆視線は相手の目線と平行に ☆名前呼びかける ☆話すスピードに注意 2. 介護される人を中心に、積極的に支える社会環境をつくる。介護される人の尊厳を守り、住み慣れた生活環境で友好的な関係を構築する。 3. ケアする側の便利さを求めるのではなく、介護される側の好みや習慣を考慮し、その行動と気持ちを汲み取る。 4. どのようなサービスも、まずは先に説明して同意してもらう。着替えを補助する際も、先に着替えを手伝うことを伝え、同意を得た後におこなうこと。 5. 本人に選択・決定させる。着替える際も着る服を2枚見せて本人に選ばせる。 6. プライバシー保護：ベッドでの着替えの際にはタオルで隠す等の配慮をする。
自立支援	1. 正しい視点で観察し、身体機能、生活状況及び本人が希望する生活目標を把握する。 2. その人の状態を観察・理解し、その人にあったサービスを提供する。 3. リラックスできる環境を提供し、コミュニケーションを通じて本人の欲求を刺激、意欲を促す。 4. グループ作業に誘い、悟られずに本人の残存能力を最大限活性化させる。 5. 多職種連携により生活に必要な訓練支援をし、身体機能の維持改善をはかる。
安全安楽	1. 本人の生活スタイルを取り入れ、自宅のように安心できる環境を整える。 2. 質問や、多様なイベントへの参加状況等から希望や意欲を確認し、楽しく生活させることで問題行動を低減する。 3. 正確な介護知識と技能の提供では、常に安全面の学術理論も意識することで、より安全な介護サービスを提供する。 4. 転落・転倒、衝突と負傷の防止措置を万全に備える。 5. 高齢者の保護、誤嚥予防、感染防止につとめる。



佐久総合病院のサービス理念



関口先生の介護技術指導と補助器具の運用

について、介護される側の体験をさせ、心境を理解させるカリキュラムを盛り込む計画をたてています。この体験をさせた後に正しい介護技術と補助器具の使い方を指導することでスキルアップを図り、技術評価スコア80点以上となるようレベルアップを進めます。それがひいては一人ひとりに適切なケアを提供して希望する生活が送れるためのサポートにつながると考えています。

2. 専門スタッフ養成訓練 単一レベルの認証の取得

社会福祉士、看護師、栄養士、理学療法士（生）等の専門スタッフが正しい介護技術と知識を習得できるよう、2023年度に介護職員養成カリキュラムを開催する予定です。そこでは30名にケアスタッフの資格と単一レベルの認証を取得させ、専門スタッフとしてのレベルアップを図る計画です。

(3) 継承

今回日本で学んだ専門知識や技術は、基金会内のスタッフの育成に役立てるだけでなく、外部の講座でも伝えていき、サービス精神を地域に広めていこうと思っています。すでに11月16日に「愛情を込めた認知症介護」の講座に招待された際、台中市社会局の家族サービスセンターに協力している20名以上の外部専門家チームに対して教育訓練を行い、介護の三大原理原則について共有しました。認知症の高齢者を支えるための多職種連携方法については、今後も広報講座を通じて、近

隣地域に拡大・普及させ、優しい介護環境を推進していきたいと考えています。

ケアスタッフの人材育成では、模擬体験や技術指導に加え、昇進制度も整備する予定です。すでに11月12、13日に1泊2日のキャリアアップキャンプを実施しました。そこでは35人のケアスタッフに人が中心のサービス理念を導入し、グループの意識改革と気づきの訓練をし、介護資源の活用によりグループで問題解決を行う練習をしました。2023年の訓練では2～4名のケアスタッフがシニアスタッフとなります。彼らが今後、新人スタッフを指導していき、サービスが継承されていくことで、ケアスタッフのイメージが向上していくことを期待しています。

6. 日本巡礼

日本行きの初日は幸運にもピカチュウモデルの航空機の初フライトに搭乗し、日本上陸早々にはピカチュウ号初乗客として日本駐在特派員記者の取材も受けました。佐久大学が心を込めて準備しておいてくれた多機能な畳部屋の宿舎に足を踏み入れて、日本の大学での研修の旅が始まりました。自転車やスクールバスを使っただけの学生生活では、構内にいる草刈りボランティアの羊の姿にも癒されました。カリキュラム内容は実に豊富かつ多元的で、日本の社会福祉、介護保険制度に始まり、介護分野の知識と技術、日本語学習から佐久市役所、地域の医療専門家を招いての実務経験やサービス状況の講義等の他、佐久総合病院の視察では人間的で温かみのある設備環境を知り、介護施設



ケアスタッフの研修キャンプの様子



見学では、介護への熱意とエネルギーを感じました。3週間の研修は実に豊かつ実用的だったので、少しも無駄にできない、日本の介護の精神と専門知識をしっかり学ぼうと、毎回十分な準備をして参加していました。

文化面のカリキュラムでは日本の風俗習慣を学びました。心まで洗われるようなお風呂文化も体験し、上高地や戸隠神社では神々の故郷にいるように大自然のフィトンチッドを楽しみ、静かな森でのヒーリングを満喫しました。また、地元のグルメを味わい、宿舎では新鮮な食材でおいしい料理も作り、身も心もどっぷりと研修に浸りました。

7. 感謝また感謝

日本台湾交流協会、佐久大学、アジアンワイズが訪日のチャンスを与えてくださったお陰で、人が中心という精神は、高齢者に限らず、日本ではあらゆる面で一貫していることを知ることができました。講師の皆様の熱意溢れる指導に感謝いたします。佐久大学の提供してくださった心のこも

った授業と宿舎に感謝いたします。盛岡理事長が自ら学んだという、「天を敬い、人を愛する」という精神を教えてくださいましたことに感謝いたします。この精神にいつも奮い立たされました。また、穏やかで親しみ深いお人柄の堀内校長が学校経営と心のこもった教育環境のマネジメントに腐心されている姿に感動しました。日本台湾交流協会には、介護福祉人材育成の日台交流を支持してくださっていること、我々に日本での学習機会を与えてくださったことに感謝いたします。これからもこの研修活動を通じて日本の介護サービス精神の種が台湾のすべての地域で芽吹き、花開いていくことを期待します。アジアンワイズ社の王珠恵先生の家族のような細やかな配慮とご指導に感謝いたします。王先生が美しい言葉で通訳してくださるだけでなく、相手が何を伝えたいのか精神的な面のフォローまでしてくださったお陰で研修内容を正確に理解することができました。国際交流部門の廣橋先生のカリキュラム構成と手配に感謝いたします。ご調整過程で数多くの問題が発生する中、一つ一つ克服してくださったおかげで本当に多くの収穫を得ることができました。

あなたたちがいてくれて、本当に良かったです！

